



©1954 松竹株式会社

# 65th Anniversary Campaign

2019.

4.1 Mon - 7.31 Wed

日本映画全盛期の1950年代。その中において壺井栄原作『二十四の瞳』が監督木下恵介、主演高峰秀子で撮影され、1954年（昭和29年）に公開しました。当時、「文部大臣も泣いた！」という話も出るくらい、瞬く間に全国の人心を魅了することになります。終戦から9年という戦後復興から日本が歩む過程でまだまだ苦しく貧しい人、心に傷をもつ人達など多くの日本人の心に共感する作品として注目されたこの作品は現在まで10回も映像化されていることをみても日本人が大切にすべき魂が込められていると確信しています。

## 映画『二十四の瞳』公開65周年記念



# 映画『二十四の瞳』 公開65周年記念

2019. 4.1 Mon – 7.31 Wed

橋口亮輔

HASHIGUCHI Ryosuke



『二十四の瞳』は、厳しく、強く、美しい映画です。

かつて木下恵介という本物の映画人がいて、本物の映画を作っていたことを知ってほしい。そして、その人は、世界の理不尽さに怒り、人に対して圧倒的共感を持って人生の厳しさと美しさを描き続けた。僕もそうありたいと心から思います。

1962年生まれ。長崎県出身。92年、初の劇場公開映画『二十才の微熱』は、劇場記録を塗り替える大ヒット記録。二作目の『渚のシンドバッド』(95')は、ロッテルダム国際映画祭グランプリ他、数々の賞に輝いた。人とのつながりを求めて子供を作ろうとする女性とゲイカップルの姿を描いた3作目『ハッシュ!』(02')は、第54回カンヌ国際映画祭監督週間に正式招待され、世界69国以上の国で公開。国内でも、文化庁優秀映画大賞をはじめ数々の賞を受賞。6年振りの新作となった『ぐるりのこと。』(08')は、女優・木村多江に数多くの女優賞を、リリー・フランキーには新人賞をもたらし、その演出力が高く評価された。7年ぶりの長編となった『恋人たち』(15')は、第89回キネマ旬報ベスト・テン第1位を獲得したほか、数多くの映画賞に輝いた。

成島 出

NARUSHIMA Izuru



愛、ということを一番教えてくれた映画でした。弱者の魂の痛みを決して見下すことなく、同じ地平に立ってそれを自分のものとし、生命力溢れる映画に仕上げるのは大変なことだったと思います。でも、だからこそ世界に誇れる反戦映画になった。戦場シーンなんか一つも無いのに。様々なシーンを思い出すたびに、目と心がうるみます。

1961年山梨県生まれ 映画監督・脚本家 '86年『みどり女』でぴあフィルムフェスティバル入選。'94年脚本家デビュー。'04年監督デビュー。『油断大敵』で第23回藤本賞受賞。『八日目の蟬』で第35回日本アカデミー賞作品賞・監督賞等受賞し、『聯合艦隊司令長官 山本五十六』『ふしぎな岬の物語』『ソロモンの偽証』『ちょっと今から仕事やめてくる』など数多くのヒットを生む。



写真提供：松竹株式会社

公開記念  
二十四の瞳映画村入村料金  
大人一律 650円  
(小人 320円)

通常料金  
大人 790円 小人 380円

全員に  
オリジナルポストカードプレゼント



二十四の瞳映画村  
香川県小豆郡小豆島町田浦  
TEL : 0879-82-2455  
<http://www.24hitomi.or.jp/>

二十四の瞳  
映画村

